



小林 和紙 Paper Works

桐美

日本の「今」を見つめる

アーティストとして、和紙を前に、できあがった作品より白紙のままの方が綺麗かもしれないと感じることほど恐ろしく、高いハードルはありません。私は四年前からそんな越前和紙が作られる五箇の近くに住み、さらに今は紙の神様を祀る岡太神社のすぐそば、紙作りのただ中で、ぼつりと木版画、紙造形の活動をしています。



同じ「福」がつく福島県で、合意なくこの先百年以上も受け継ぐ羽目となってしまった放射能の汚染。私は五箇を、自分なりに日本の「今」を見つめる拠点と感じています。

越前和紙は、2011年東京電力福島第一原発事故の後、作品を作ることができなくなった私に、辛い時も、あるいは辛い時こそもう一度紙と向き合い、自分の思いを表現してみようと感じさせてくれました。次の世代に引き継ごうとする熱意の中で千三百年受け継がれてきた伝統。

和紙のみみ ~ BOKU 墨

杉本博

職人によって漉かれた紙は商品として均一性を求められているが、漉かれた紙の個性的な部分は唯一「耳」に現れると

いってもよい。そこには職人に漉かれた紙に無意識に神

(川上御前) がやどっているように感じる。

その個性とは、厚さであり波形であり表情であり同じ耳は存在しない。

何度も見つめ触りながら受け止めていくことで、個性を受容できる感受性が自分にはあるかを問い直していく。また、その個性を引き出してくれるもう一つは墨である。

それぞれの個性に相応して墨は表情を描き出していく。そこには、耳と墨による緊張感と折合いが見られる。その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

それぞれの個性に相応して墨は表情を描き出していく。そこには、耳と墨による緊張感と折合いが見られる。その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。

その一枚一枚を並べていくことにより、紙にやどった神との関わりを深める作業が好きなのである。



7.16 日
トークイベント
14時 ~ 15時

アーティストの杉本博、小林桐美と、紙を漉いておられる地元の越前和紙職人さんとの対話。素材を作る伝統工芸の世界と、それを使ってアートに形にする作家とが改めて顔を合わせます。このような、異なった「ものづくり」が両方ある越前ならではのコミュニティの会話。

ゲストスピーカー
長田製紙所
伝統工芸士
長田和也さん

柳瀬良三製紙所
伝統工芸士
柳瀬京子さん

現代美術作家
増田頼保さん

「我ら、越前和紙の里に住んでるんやあ...」

開催場所：
越前和紙の里 卯立の工芸館
事前予約不要 定員なし